

令和8年度 小樽市立北陵中学校 学力向上改善プラン

1 生徒の実態

① 前改善プランの定着目標の達成状況

国語において、配当漢字の書き取りは授業中積極的に取り組んでいたが、家庭学習の不足から定着に至らず50%に留まった。しかし、漢字を書くことに意欲的な生徒が増えたため、指導を継続することで向上する可能性がある。情報をもとに自分の考えを書く活動では、1,2年生で50%程度の生徒が条件を満たして書けるようになってきた。今後も文章を読む・書く活動を継続して取り組んでいく必要がある。数学において習熟度別授業を行うことで、目標値より上かそれに近い達成率まで定着させることができた。しかし、関数や方程式では苦手意識が強く、また、既習事項の積み重ね不足によるつまづきが課題であるため、今後も習熟度別少人数指導による個に応じた指導を通して学力の定着に努めていく必要がある。

② 全国学力・学習状況調査結果（教科）

令和7年度は、全国平均との差が国語-13.3、数学-20.3ポイントであった。国語においては学習指導要領の内容、数学においては全項目で全国平均を下回り、どの内容・領域も課題が見られた。しかしながら、国語の読むことの内容においては全国平均を上回った問題もあるなど成果も見られた。生徒アンケートの結果から、「数学の授業はよくわかる」と肯定的な回答をした生徒の割合が82.5%と全国より高く、その意識をどのように学力の定着に結び付けていくかが今後の課題である。

③ 標準学力調査

令和7年度は、全国平均との差が国語-10.3、数学-7.7、英語-6.7ポイントであった。国語においては聞くこと、読むこと、数学においては全項目（数と式、図形、関数、データの活用）、英語においては書くことにおいて課題が見られる。一方で、国語では漢字の問題、英語では聞くことの問題において定着が見られた。

④ その他の検査（確認テスト、単元テスト等）

単元テストの結果から、国語において、漢字テストの継続的な実施により配当漢字の正答率が概ね60%を超えるようになった。数学においても、2年生で連立方程式、合同な図形、確率などで成果が見られた。1年生については上位層の生徒が少なく、上を伸ばし下位層の力をどのように伸ばしていくのが課題である。

⑤ 全国学力・学習状況調査結果（生徒質問）

家庭学習において、学校の授業以外1時間以上勉強している割合は57.9%と半数以上の生徒が家庭学習に取り組んでいた。その一方で、「全くしない」と答えた生徒が12.3%と全国と比べて4.6ポイント低く、粘り強く学習に取り組む姿勢に課題が見られる。

⑥ 家庭生活及び学習の状況等

本校で実施している年2回のアンケートの結果、家庭学習を1日1時間以上勉強している生徒の割合はそれぞれ44.8%、40.6%、52.7%と定着目標に届かなかった。また、スマホや携帯などの使用時間が2時間未満の生徒の割合はどの学年も50%台であり、今後もスケジュール手帳を活用し、生活習慣や家庭学習の習慣を確認するとともに家庭と連携して改善を図っていく必要がある。

2 学年ごとの定着目標（数値目標）

<国語科>

学年	定着目標
1年	・情報を基に自分の考えを書くことができる (50%) ・配当漢字を読み書くことができる (60%)
2年	・文章の内容や構成、表現上の特色を踏まえ、自分の考えを書くことができる (60%) ・配当漢字を読み書くことができる (60%)
3年	・複数の資料から得た情報を整理して、伝えたい事項や考えを明確にして書くことができる (60%) ・配当漢字を読み書くことができる (60%)

<数学科>

学年	定着目標
1年	・正負の数の四則計算ができる (70%) ・方程式を解くことができる (50%) ・いろいろな図形の作図ができる (60%)
2年	・連立方程式を解くことができる (60%) ・一次関数を求め、グラフを書くことができる (60%) ・合同な図形を証明することができる (50%)
3年	・根号を含む式を計算することができる (60%) ・二次方程式を解くことができる (60%) ・三平方の定理を利用して問題を解くことができる (65%)

<学習・生活習慣（家庭学習等）>

学年	定着目標
1年	・1時間以上家庭学習ができる (50%) ・スマホなどの使用時間を2時間未満とする (60%) ・スマホの使い方など家庭でルールを決めて利用する (70%)
2年	・1時間以上家庭学習ができる (50%) ・スマホなどの使用時間を2時間未満とする (60%) ・スマホの使い方など、家庭でルールを決めて利用する (70%)
3年	・1時間以上家庭学習ができる (60%) ・スマホなどの使用時間を2時間未満とする (70%) ・スマホの使い方など家庭でルールを決めて利用する (70%)

3 目標を達成するための具体的な方策

(1) 基礎学力の確実な定着を図る取組

- ① 数学において習熟度別少人数指導を全学年で実施し、個に応じた指導の充実を図る。
- ② 学園制加配を活用するなど、中1ギャップの解消に向けて、数学（算数）・理科・英語において小中一貫した教育を充実する。
- ③ 単元テストや小テスト、チャレンジテスト等によって、一人ひとりの生徒の定着の様子を把握し、個別の支援を行う。
- ④ 放課後学習室「北陵学習室」や長期休業中の補充学習を活用し、基礎学力の定着を図る。
- ⑤ 朝読書、NIEの取組により、集中力、読解力、表現力の向上を目指す。
- ⑥ 学習習慣の確立を図るため、スケジュール手帳を活用し、個別の支援・助言を行う。

(2) 確かな学力をはぐくむ授業改善の取組

- ① 全学年統一した授業規律の確立と徹底を図る
- ② 各教科で ICT 機器 (Chromebook) を有効活用し、個別最適な学びを充実する。
- ③ 校内研修の実施により全校的な授業改善に取り組む。具体的にはUDの視点を取り入れた授業の工夫を行う。
- ④ 小テスト等を定期的実施することで反復学習を図る
- ⑤ 学び方を選択できる機会を取り入れた授業づくりを推進する。
- ⑥ 教室のユニバーサルデザイン化を図る
- ⑦ 学力向上推進委員会を開催し、問題点検証及び改善策を提案する。

(3) 家庭と連携した学習習慣・生活習慣をはぐくむ取組

- ① 家庭学習に取り組むための教材や宿題を提供する
- ② 生活習慣の確立を図るため、スケジュール手帳を活用し、個別の支援、助言を行う。
- ③ 落ち着いて学習に取り組む姿勢をはぐくむために、朝の時間を活用し、朝読書 (読む習慣) ・朝学習 (小学校の復習等) に取り組む。
- ④ 学校司書と連携し、生徒の読書の質と量を高める。
- ⑤ おたるスマート7を活用し、生活習慣の実態を把握するとともに、携帯やスマホの時間の使い方について意識を高める働きかけを行う。
- ⑥ 保護者会等でメディアと学力の関係についてふれ、生徒のメディアに触れる時間の短縮を目指す。
- ⑦ 小中一貫による教育を推進する。

4 実施計画

年月日	計画内容
R 7年	・チャレンジテスト (前年度問題) の実施
4月	○R 8 全国学力・学習状況調査の実施 ○全国学力・学習状況調査 自己採点
	○標準学力調査実施 (第2学年)
	・学習規律の確認、指導 ・放課後学習室「北陵学習室」開校 ・教室環境整備 (ユニバーサルデザイン) ・復習テスト (学力テスト) 全学年実施 ・評価、評定の確認 ・校内研修
	○標準学力調査結果分析
5月	・校内研修
	・チャレンジテスト (1学期末問題) の実施
6月	・保護者会の実施
	・チャレンジテスト結果分析
7月	・長期休業期間「北陵学習室 summer」
	○R 8 全国学力・学習状況調査結果分析
8月	
9月	・第1回定期テスト、3年生復習テスト (総合A)

10月	・3年生復習テスト (総合B)
11月	・進路保護者説明会 ○保護者への調査結果の説明
12月	・3年生復習テスト (総合C) ・公開研究会 ・チャレンジテスト (2学期末問題) の実施 ・チャレンジテスト結果分析
R 9年	・長期休業期間「北陵学習室 winter」
1月	・3年生第2回定期テスト
2月	・学力向上検討委員会 ・1, 2年生第2回定期テスト
3月	・チャレンジテスト (学年末確認問題) の実施 ○学力向上改善プランの評価・改善 ○新学力向上改善プランの作成

5 評価方法

(1) 基礎学力の確実な定着を図る取組

- ① 学習支援加配を活用し、数学科の習熟度別少人数指導を年間355時間以上実施する。
- ② 学園制加配を活用し、数学 (算数) 科では週1回の小中乗り入れ授業、理科・外国語では専科授業を実施する。
- ③ 単元テスト・小テスト・チャレンジテストの結果を分析し、生徒の定着度を評価する。
- ④ 放課後学習を年間152時間、長期休業中の補充学習を年間24時間以上実施する。
- ⑤ 朝読書やNIEの取組を週1回ずつ実施する。
- ⑥ 生徒アンケート等による分析によって評価する。

(2) 授業改善を図る校内研修の取組

- ① 授業改善へ向けた取組として、授業交流強化週間を設ける。また、公開研究会を含めた校内研修を年間8回以上実施する。
- ② 効果的な端末の活用方法について実践を持ち寄る研修を年間1回以上、外部講師を招いての研修を1回以上実施する。
- ③ 特別支援コーディネーター等によるUDに関わる研修等を年間2回以上実施する。
- ④ 小テスト等の採点結果を集計し、分析する。
- ⑤ 校内研修や授業交流で事例を交流・検証し工夫・改善につなげる。生徒アンケート及び職員自己評価により評価する。
- ⑥ 生徒アンケート及び職員自己評価により評価する。
- ⑦ 学力向上推進委員会を年2回以上実施し、分析結果に応じて都度評価する。

(3) 家庭と連携した学習習慣・生活習慣をはぐくむ取組

- ① 教材や宿題の内容等について生徒アンケートや職員自己評価により評価する。
- ② 担任によるスケジュール手帳の確認を週1回以上実施する。
- ③ 朝学習を週2回以上実施する。
- ④ 学校司書や図書委員会で作成する図書だよりを年間3回以上発行する。
- ⑤ 保護者アンケートと生徒アンケートを年間2回以上実施する。
- ⑥ 職員自己評価結果による分析を通して評価する。